

2021年9月16日

第19回広島県NIE教育奨励賞の決定について

広島県NIE推進協議会

広島県NIE推進協議会(会長・朝倉淳 安田女子大教授)は、優れたNIE活動の実践に贈る「第19回NIE教育奨励賞」の受賞者(学校含む)を決定しました。

今年度、賞の規定を一部改正し、賞の対象となる実践の期間を約2年から、約1年に変更しました。本来であれば第19回は2020年4月～2021年12月の実践が対象でしたが、変更に伴い、第19回は2020年4月から2021年3月、第20回を2021年4月から2022年1月となります。

第19回の対象は、「2020年度実践報告書」に掲載された30点。朝倉会長を委員長に、県NIE推進協議会の役員など7人で審査し、賞は、最優秀奨励賞1点、優秀奨励賞2点、優良奨励賞3点を選びました。

受賞者・校の一覧は、次ページに掲載しました。なお、受賞者の所属校は実践時となります。

第19回 広島県NIE教育奨励賞受賞者

2021年9月16日発表

※受賞者の学校名は原則として実践時の所属校

賞	受賞者・校(敬称略)	学校名	タイトル
最優秀奨励賞	江田島市立 中町小学校	江田島市立中町小学校	自分の考えをもち, 自分の言葉で考えを伝え, 行動する児童の育成 ～授業におけるICT及び新聞の効果的な活用を通して～
優秀奨励賞	為重 慎一	広島国際学院 中学校・高等学校	With/After コロナにおける新しい NIE 実践の模索 ～NIE で生徒―学校―社会をつなげる、つながる
優秀奨励賞	海田町立 海田西小学校	海田町立海田西小学校	自分の考えを再構築させるNIEをめざして ～新聞記事から始まるストーリー～
優良奨励賞	鶴田 輝樹	広島大学附属中・高等学校	SDGs 達成に向けた NIE 実践の開発① ～新たな知識や思考の枠組みとしての SDGs～
優良奨励賞	藤居 真路	県立尾道商業高等学校	NIE 実践を通して激動する社会に打ち勝つ生徒を育てる！ ―新聞を活用して PISA 型読解力の育成―
優良奨励賞	呉市立和庄小学校	呉市立和庄小学校	学習のまとめに新聞づくりを

2021年9月16日

《第19回広島県NIE教育奨励賞 講評》

審査委員長(広島県NIE推進協議会長)
朝倉 淳(あさくら・あつし、安田女子大学教授)

第19回の教育奨励賞については、2020年度に実践された広島県NIE実践指定校の報告から、最優秀1点、優秀2点、優良3点が選考されました。コロナ禍でのNIEとなり困難もありましたが、すべての報告から子どもたちの学びを止めないための熱意や努力が伝わってきました。

実践報告の全体を通じて、大きく三つの特徴がみられます。

- ① NIEタイムなど、日常の中に位置付けた実践がされていること
- ② SDGs など、今日的な課題と関連付けた実践がされていること
- ③ 「読む」から「考える」「書く」に続いていく実践がされていること

このような特徴は、コロナ禍にあって日常生活のリズムが一層重要になったこと、新聞と実社会や未来社会との関係が再認識されたこと、子どもたちの問題解決、目的実現の力の育成が目指されていることに関係していると考えられます。

また、最優秀となった江田島市立中町小学校のNIEには、学校として継続した取り組みであること、教科学習や委員会活動、環境整備など総合的に展開していること、「書く」「話す」を軸にした学年段階を見通した実践であることなどの特徴があります。一つ一つの丁寧な実践が大きな成果を生んでいます。課題が明確にされ、次に向けてマネジメントされていることも大切な点です。

激動する世界で生きる私たちにとって「情報」は重要な役割を果たします。いま真の「情報リテラシー」が求められています。新聞の特性を生かしたNIEが一層大切になっています。子どもたちとともにそれぞれの世代が、身近な社会から世界にまで関心を持ち、情報を適切に活用して深く考え行動する力を伸ばしていきたいものです。